【kè)「可汗・可罕カズーカス」は、鮮卑ヴ回紇クズー蒙古ホッ゚など北方民族の君主の回紇クズーは、鮮卑ヴーカス」は、鮮卑ヴ 鮮卑ない・ 称号。 ・柔然・突厥ケダー

「お」 助動詞として目的語となる述語構造の動詞の 「いっと訓読する。中心的な意味は可能を まか必要であるが、ほかにもさまざまな意味を示すので、注意が必要である。 であるが、ほかにもさまざまな意味を示すので、注意が必要である。 でいまできる」「…しうる」と訳す。▼「能なりを活して、可能の意味は可能を を観的な状況や条件また能力において、可能なことを示 といっと、「…できる」といできる(論衡・率性) で駅悪は変えて善なるもで、▼「能り句法」」200にまいて、可能なことを示 注をの

②許可の意 内容が十分で 例公冶長 嫁がせて 分であるとして許可や同意を示し、「・・・してもよ マリン妻也をうやちょうめの 訳 公冶長には(娘を)

● 王僚可」殺也なるおおに配王僚は殺さなければならい。当然の意

で、「・・・するの」 谷関を守備させたほうがよい、漢・高帝紀上) ・ 一のがよい」と訳す。 ・ は、からそうしたほうがよいと相手に 周囲の状況からそうしたほうがよいと相手に 記急 動めるも いで函

様子や行る

に催する」「…に足る」と訳す。《後にこの用法における一部の表現(「可愛」「可憐」など)が固定的に用いられて、「可十一動詞」」全体が形容詞句となり、「可」自体は形容詞の接頭語へと変化した。

例 最為 可、悲ななない。 別とうして生いて、「母・面、異者」

…」(もっテ…ベシ)」の形で、「可」と「以」を分離して読が、ふつう前置詞「以」の目的語は省略される。「可」以を別置詞の「以」とが、「可以」と熟したものである【可以】

ス、「…によって…できる」のように訳す。 例滄浪之水清兮、可…以濯…舌纓 がう。以滄浪の川の水が澄んだなら、そ はらっとができる(楚・漁父) 古とといって、それで、一百とのひもを

例五十者可以次、見るとと例五十者可以次、見るとと 合、「可能」だけでなく「当然」の意味をになうことがある。 ものにみなされるものがある(訓読のしかたは同じ)。この場 ただし、前置詞「以」の働きが弱化して、「可」一字と同じ

・
分当然の場合 人も絹織物を着ることができる〈孟・梁恵王』五十者可二以衣戸帛矣ごじゅううしものもっし 配五十歳

例学不り (荀·勧学) 可二以已 一やムベカラず 訳 学問は中 -断してはな

例可…而治.」其国一矣まおきよ。シ」の形で、「…できる」と訳す。記でも「而」を「以」とみなして、「 弱化した「可以 「可…而…」 。したがって テ…ベ

例 可 □ 而 治 □ 其 国 □ 矣 引

비

【可得而】【可得以】
「可得」と同じ意味を表す。「可,得而…」(えデー・マシ)」「可,得以…」(えデー・スペシ)」の形でいず。」、「可,得以…」(えデー・スペシ)」の形でいず。「・・できる」・・・しうる」と訳す。
「サイン・文章 可,将而聞,也炒いでいず。」、「可得」と同じ意味を表す。「可,得か問」、「可得以」が付加したもの。「可得」と同じ意味を表す。「可,得加」「可得以」が付加したもの。「可得」と同じ意味を表す。「可,以が付加したもの。「可得」という。

「可……(…ばかり)」の数詞や数詞を含む句の前 の形で、「 いて、 よそ ょそ」「…くら、概数を推し

御

おきムベシド駅その国を統治す 」ある動

ベシ)」の形で、いずれ何而…」(えテ…スベジ」が付加したもので、 た合語・

い」「…ほど」と訳す。「可」…」(・

可二数百歩一がきょスなばかけっ記(馬車を)数百歩

「いずクンソ」と訓読するほうが、より正形に訓読してきたが、反語の副詞として用法である。従来、「可……(…スペケ用法である。 反語を表す副詞として隋唐経 ほど操縦した(韓・外儲説左上) ◎るほうが、より正確である。「どうし反語の副詞として「あニ」「なんゾ」の語の副詞として「あニ」「なんゾ」と 反語の則計として隋唐は八以降に出現した

例此情可待」成って…であろうか」と訳す 思いはどうして追憶となるのを待る例此情可待」が、追憶していない。 つ必要が かあろうか(李

商隠-詩・錦瑟) 時間や状況

の条件に対して適合する意を表す。普通「可」……などの条件に対して適合する意を表す。普通「可」……などの条件に対して適合する意を表す。普通「可」……島可食物野死不」。葬、島可」食物ができない。」…島可食がながらない。 り食 ち

(できまながない。 配着野に単ダー・1・なっていばもう、戦場時) よっていばもう、戦場時) よっていばもう、戦場時) よっていばもう、戦場時 からご・・であるが、などと訳す。「宋小代以降、「是」と連用 し、「可是」として表記されるとうになる。 し、「可是」として表記されるとうになる。 し、「可是」として表記されるとうになる。 しかしながら互いに理解していない(諸葛亮・答手厳書) しながら互いに理解していない(諸葛亮・答手厳書) しながら互いに理解していない(諸葛亮・答手厳書)

って 不然 より より ある。 難読 (=気が達するさま 可 児 にか ◎さま)」から構成さ戸』肯定する。「□□ 可笑が · 可 成龄• され、 され、「干」 •可惜% しは音

対否決。 一詩・次韻

4) 2) かわい

いさま。〈左・宣三

笑しく いろう ①嘲笑すい oべき。②おも−か口にかなう。味が 味がよい。 。愉快な。(寒 芽がね。 対の対

萌短股

「句萌ネック(=草木の若芽)」4かぎ。| (角に対する斜辺は弦》「句股コッウ」。

1 2 2

●鉤っ。 **⑤** 生える若 **⑤**

こす 🕒 姓

■ (動)

0

塗り弓はいっぷ

ぱる。

いに引きし

こぼられた(詩

旬

た(詩・

キュウ(キウ) 郷 | 北 群尤平 qiú

 \square 2

回仇仇計分

唐・第五琦伝〉

同

勾当。

かう。

任務を受けて処

心理する。

なりたち

þ

説文』『形声』湾曲。「口

」から構成さ

ħ 新

①短歌・連歌における「五・七・五

一または

(5) 1980 53F6 人 丰 3 ウ(ケフ) 湧 寒 匣帖入 xié

口 2

なりたち (一副) 日本語用法」かな-う。望んでいたことが成就する。「願いがDED 【闕又】▼「協ギ」」別の単共同で。共通して。いっしょに。「叶謀キャ゙」別ので。共通して。いっしょに。「叶謀キャ゙ゥ」の関協。 かない・かのう・やす 叶

の朱子の古典注釈に多用された。協韻。
およく調和するように、臨時に発音を改めて読むこと。宋かもよく調和するように、臨時に発音を改めて読むこと。宋かもよく調和するように、臨時に発音を改めて読むこと。宋か 田・叶音】(ギョッ『詩経』などの先秦珍時代の詩の押【除字】「叶」=「葉」

口 2

句

(5)

2271

53E5

教5

句 ク

白

CBA 筆順

□ 2 (5) 2437 53E4 教2 ふコ る

筆順 古

過去の。 趣 ひさ のあるさま。といさしく時間 通 通経

昔い[°] 物。② 例 遠 信而好 い昔。 一往古

部

▼

2 画 ▼

い・ふる・す

 ○昔の法。昔のやり方。昔の事物
 ○世の法。昔のやり方。昔の事物
 ○世のにしえ・イニシへ。
 ○世のにしえ・イニシへ。
 ○世のにしえ・イニシへ。 **9**

「懐古」

日本語用法」ふる・す。古びさせる。「使い古す伝えられる」前代の説話を知ること。「口(=口伝)」から構成され、「殿図」(会意》はるかにふるい 「先古」 上古の文化を信じて、 ❸ 古体詩の略称。「五古(=五言古詩)」の文化を信じて、あこがれている(論・述而) はるかにふるい。「十五古(=五言古詩)」 、〔多くの口い。「十(=多 **42** 姓先 祖。 なにい

趣。《蘇軾-詩・子 す」 名前したか・

【古意】 気持ち。(杜野)古めかしい 3詩題の一つ。

1212と助と

して文を区

劇場。

が 句句

しも)と追号された。

古今】 コン・コンの 【古今注】 ココン・コンの 関 刺 撰サック 著者を晋沙の崔豹はアルチ5~~ (報名) 音楽、鳥獣、草木など多方など。集団 音楽、鳥獣、草木など多方など。) 昔も今 一代の ŧ

部首《《山中尸尤小寸宀子女大夕久久士土□ □

ずれも三巻。 清

** 帝の命により編集が始まり、雍正特帝の ** 帝の命により編集が始まり、雍正特帝の ** 帝の命により編集が始まり、雍正特帝の ** 帝の命により編集が始まり、雍正特帝の ** 帝の命により編集が始まり、雍正特帝の 国最大の類書(=項目分類によー図(圖)書集成】ショウャトショ 項目分類による編纂於書)。 上は帝のとき完成。 による編纂が書)。康日 き完成。陳 別別に編ま 比較の

つ。押韻55、平仄55。句数などの規則が緩い。古体詩。ひろく古代の詩歌。(班固 両都賦)②漢詩の形式の一口詩】2 ①南北朝時代、漢魏寺の作者不明の詩。のち、対象となる者がいないほど優れている。 いだに、比・独(獨) 古体詩。

1 古 時代の詩文の格式。〈詩品・下〉

でいて、文が盛んになり、しだいに内容が空疎になったことを をの一つ。魏晋洋、以来、技巧と修辞に傾斜した四六騈儷の一つ。魏晋洋、以来、技巧と修辞に傾斜した四六騈儷の一つ。魏晋洋、以来、技巧と修辞に傾斜した四六騈儷の一つ。魏晋洋、以来、技巧と修辞に傾斜した四六騈儷の一つ。魏晋洋、以来、技巧と修辞に傾斜した四六騈儷の一つ。魏晋洋、以来、技巧と修辞に傾斜した四六騈儷の一つ。魏晋洋、以来、技巧と修辞に傾斜した。

□ 2

前側を 誠意のあるさま。懇切なさま。〈繁欽-詩・定

最も敬意ある礼。〈史·呉王濂伝〉 【叩 頭】ロウ ひたいを床や地面にうちつけるようにおじぎする。

□ 2 「叩門」コウ 門をたたく。 人の家を訪 ねる。(史・袁盎伝)

(5) ゴ

號 (13)号 匣号去 hào 豪 匣豪平

虍 7

□ 9

ずねる》 週 胡 ¬。 例 君 号 妖■ 《代》 ❶ (hú) なぜ、どう

■(名) ①名称。となる。な。「名号」「国号」 ②名や字は。以外にとなえた、よびな。「雅号」 別時」 ③配列の順序。等似のにとば、「軍号」 ③標識。しるし。「符号」「暗号」 ④評判。うわさ。「嘉号ォ」「頭号」 ③商店を表す語。「銀号」 ●記列の順序。等別の、のののでは、一定の意味を表す吹き方。

【釈名】「号」は「呼」である。その善悪によって呼んで々呼ぶ。「号(=いたみなげく声)」「虎(=トラ)」から構成き)」の上にあるようすから構成される。 【號】《公意》 声。「口」が「ち(三気がさえぎられるさ声。「口」が「ち(三気がさえぎられるさ)」いたみなげく 」から構成される。 ∭《会意》 大声で れるさ

【別義語】【号・泣・哭?・啼け】は声を張り上げて痛切になの、「泣」は声は出さずに涙だけ流すもの、「号」は、哭」とといずれも、なく意であるが、「哭?」は声をより上げ涙を流すもいずれも、なく意であるが、「哭?」は声を張り上げ涙を流すもくものをいう。

、その音。 2

号・年号・俳号・番号・法号・口号・称号・商号・信号・正号・背後熟調」哀号・改号・記号・正号・叫「後熟調」 気外・号鐘・号笛 ・尊号・追号・怒号・1 二呼

(5) 2742 53F8 教4 シ

□ 2

官の ġ 重例

■ (動) ● 偵察する。うかが-う-ウカガ-フ。 園 画 (動) ● 偵察する。つかが-7-2 園 一 (動) ● (力) **(1)** 0 職役

ਰ もの。「后(=きみ)」を反転さに脱文】『指事』臣下で朝廷 足外で仕事を行 ら構成を行う

部

2画▼

官名。三国魏ギ・呉で、

塩・鉄の

|名前||おさむ・つとか・もと・もり|
「司・塩(鹽)校尉」がたり「官名。周代、世年産をつかさどった。
「中塩(鹽)校尉」がたり「官名。周代、世年産をつかさどった。 (司儀)ギ 官名。賓客接待の儀礼を管理する。〈周・秋官・司 財政を担当した。 2 Ĭ

儀

【司空、曙)ショゥ 人名 詩に優れ、送別や漂流 詩に優れ、送別や漂流 時に優れ、送別や漂流

記

[司・長]シン、雄鶏セ゚また、朝を告げる鶏の声。(陶潜・詩・述 「司・機・吏・司、職・吏]ッシッック。 周代、牧畜管理の役人。 「司・機・吏・司、職・吏]ッシッック。 周代、牧畜管理の役人。 「司・機・司、職・吏]ッシッック。 周代、牧畜管理の役人。

酒)
「司 成]
「

■ 又厶厂□ト十匸匚匕勺力刀凵几?部首

(13)6536 7576 ■トウ(タウ)⊛⊜ | | 端宕去| A トウ(タウ)⊛⊜ | | 端居平 ・ウ (タウ) 躑 鴎

當

と相応する(有情勢) ① (相手と対等の) 和言語語はなっ」 と相応する(有情勢) ② (相手と対等の) 力で、抵抗する。防 をがいる。(報音、要な) 三 (相手と対等の) 力で、抵抗する。防 をがいる。(報音、要な) 三 (対等である。 例 画雄 力相 当の。 いない(通鑑・漢・建安三) ② 対等である。 例 画雄 力相 当の。 いない(通鑑・漢・建安三) ② 対等である。 例 画雄 力相 当の。 いない(通鑑・漢・建安三) ② 対等である。 例 画雄 力相 当の。 とうない(素もなど) 配 一人が関所で阻止すれば、万人で とうない(素もなど) 配 一人が関所で阻止すれば、万人で とうない(素もなど) (別 一十、対域のではないことを断 群にちょうど対応するとして) 主宰する。つかさどる。 例 中山 野にちょうど対応するとして) 主宰する。つかさどる。 例 中山 野にちょうど対応するとして) 主宰する。つかさどる。 例 中山 野にちょうど対応するとして) 主宰する。つかさどる。 例 中山 野にちょうと対応する(報音、との) ことを断 罪した(東・若将年伝) ② 同じである。 (報令、とうる) の 回 世の に登ろう(「祖子」田子力では「営」に作る。一説に、仮定 の接続詞(鑑定)とする(利黄帝) ■ (助動) ① まさ-に…へし、▼ 同窓1 ■ (助動) ① まさ-に…へし、まざ-に…す。な-お・ナ・ホ。▼ ど匹敵する。 ■(動) 例 論説は必ず 探|者上♥クラートを記しています。
対抗する。対抗は必ず道 つの物がち

図(前) ●あ-たりて。(後に記述される行為が、ある物事に 面と向かって、またはある時間や場所に直面してなされた意) の…に対し。…に面と向かって機を織っていた「木蘭詩」②… に。ちょうど…に。 例当」在」末也、予将」有二遠行二きがりかい。 ので、またはある時間や場所に直面してなされた意)

対象の「当年 以前の 一番の。 「当夜(=あのころの夜)」 0 盛んな

B■《動》あ-たる。あ-てる・ア-ツ。《とう図《接》 ●も-し。《仮定を表す》 圖 儻っ。

● 卓然 当二天子意」にないいから、配(貧乏よう。)。 ・ と)みなす。例 安歩以 当」、車まなはずまり。配(貧乏よう。)。 と)みなす。例を歩以 当」、車まなはずまり。配(貧乏よう。)。 っくり歩くいとを車に乗るいといる: ・ でくり上を車に乗るいといる: る、**⑩**党。例公而不」当に対せが、配公平でひいきしないでり歩くことを車に乗ることとみなした(国策・斉四) ❷ [同っくり歩くことを車に乗ることとみなした(国策・斉四) ❷ [同っくり歩くことを車に乗ることとみなした(国策・斉四) ❷ [同っと]みなす。例安歩以当」車は針ぎがで、配(貧乏なので)ゆと]みなす。例安歩以当」車は針ぎがで、配(貧乏なので)ゆと)みなす。例安歩以当」車は針ぎがで、配(貧乏なので)ゆと)みなす。例安歩以当」車は針ぎがで、配(貧乏なので)ゆと)みなす。例安歩以当」車は針ぎがで、配(貧乏なので)ゆとり

(形) ●適したさま、「適当」「妥当」 ②まさにその。今回 (形) ●道(形) ●道(形) ●道(形) ●道(名) ● (形) ●道(名) ● (記) (降の用

という肯定や断定を表し、「…しなければならない」などとという肯定や断定を表し、「…しなければならない」などと「まさ二…ベシ」と再読する。道理に照らして当然である「日満」助動詞の目的語となる述語構造の前に置き、

男たるものはまさにこのようにならなければならない(史・例)大丈夫当」如」此也だいじょうらままさいく、訳りっぱな

副詞として述語の前に置き、 、以下のごとくの用

「尚」と同じで、「まだ」「依然として」「やはり」などと訳す③ 事情が変わらない意を表す。「なホ」と訓読し、副 て終局を迎えられるのに、依然として何を心配するのでて終局を迎えられるのに、依然として「やはり」などと訳す、一般に安入じたので、「かはりなどはからなり、はからはからないない。配置之に、一人の常能であり、死者人之終也、処、常得人終、何回」と同じで、「まだ」「依然として」「やはり」などと訳す。

て仮定の条件節を作り、主節に連ねる。「もし…なら」「かし…であれば」と訳す。 優先祖当賢、後子孫必顕はほながながらいら訳 先倒先祖当賢、後子孫必顕はなながながらいら訳 先祖がもし賢明であったら、後世の子孫は必ず栄えよら(荀・君子)

字を熟して「当使…(もシ…)」と訓読するが、意味は使」…」(もシ…しメバ)」の形で訓読するか、またはこの二 仮定用法の「使」とともに用いることもあり、この なくしたならば、人間が必ず取り押さえてしまうであろうからからなどれないはない。 まい カーラウヒョウが爪や牙をの 当使 …虎豹失…其爪牙、則人必制」之矣。そうことの 当他 …虎豹失…其爪牙、則人必制」之矣。そうことない。

(韓・人主)

當 る。「田」から集ら 当・典】404 当・典】404 当がら構成され、「台 「尙」が音。 |相当す

る」などの! た。□■正宮」ま・たる。 ①命中する。ぶつかる。「山中などを身に受ける。「日に当たる」 ③「擦などの忌み調旺"として用いられる。 【名前】まさら・当麻ホキュロヒッッ。 諸用法」あ−たる。 ①命☆語】▼【質・贅で・当・典】 ③「擦*る」 まさ難読当 が当たる」

【当家】■カトゥ 【当意即(即)妙】ノトウァイ限ネラゥ・当麻キューキネッッ ョウ 国その場に即した機転をうま

一族。同族。北史・房法寿伝)③家事を担当する下僕。 ④自分。本人。朝野食献・王 一外,国この家。れが家。 当関(關)がか「の門衛・四番・伊東・宇山巨源絶交書) ②関所を守る。また、その人。李白-詩・蜀道難、 当局】計か 「の事を打つ。②終さる。そのことに自身が当たる。塩鉄・刺復)③そのことを扱う部署。(梁・朱异伝) ①家事のきりもりをす る。 でおが家。 でもが家。

| 当罪] サウン る皇帝や日本の天皇。今上陛下。 る皇帝や日本の天皇。今上陛下。 在位してい

当罪に いさま。〈管・問〉 (左•襄元) ② 刑罰 がその

プトゥ ① 当事者。 (国) 当事者。 ①事に臨む。〈礼・檀弓下〉 2職につく。 (宋書・

尙

(8)

当当前。

(当値) キゥ ①あたる。三国・張嶷伝・注)②当直する。 (当直) キャッ ① 日直や宿直をする。(宋書・百官志下)②家 ・ 三直) キャッ の 大の ・ 一 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ② ・ 実権を握る人人、(韓・孤憤)③ 途中。 蘇軾・非・甘露寺) ・ 実権を握る人人、(韓・孤憤)③ 途中。 蘇軾・非・甘露寺) ・ 「当道] キャシみなな ① 正しい道に合致する。(孟・告子下)② ・ 「当道] キャシみなな ① 正しい道に合致する。(五・告子下)② **②**家 2

2

当当当時当▼ 是面方否。全年3

選・当籤5・当然・当地・当店・当人・当番・当分・当落【蒯駟圖】当為・当該・当帰*550*、当座・当主・当節・当【当惑】7か 国どらしてよいか分からず、途方に暮れること。

当・相当・担当・抵当・配当・不当・弁当【後熟問】穏当・該当・勘当・見当・至当・充当・順当 (8) 3016 5C1A

> 小 5 筆順 112 5C19 Α ショ ウ(シャウ) 湧 粤 兴 尚 shàng 陽禅陽平 **謙禅漾去**

В ショ ウ(シャウ)歯傷

■(名)) **①** けだかいようす。 **③** 姓。 「風尚」 。 たか・い・タカ・シ。 を高いとみなして)ほこる。自負 を高いとみなして)ほこる。 はながくりも見いり配)学者たちが政程度が高い。たか・い・タカ・シ。 0 「時尚」

> 書』の「尚 【尚▽饗】

たか・ひさ・ます・よし

こいねがわくはう

なーお・ナーホ。 (動 作が引き続 いて変化

て、その美 られる語。

賢 52

|かシッ゚ットケンシシッ 賢人をたっとぶ。ヘの美しさをかくし、へりくだった能のまがったがない。

い意》例元済尚寝知い、即元済はまだ寝ていた、通鑑・唐・元和三) ②なおかっな・お・オ・ホ。▼同述 ③ 望むところは、どうか。こいねが・わくは・コヒネガ・ハクハ。《願望や命令の語気を表す》例余尚得・法下」は対対が、原私はなんとか天下を得たいものである。左・昭三)は対対が、原本はなんとか天下を得たいものである。左・昭三)は対対が、原本はなんとか天下を得たいものである。左・昭三)は対対が、原本はない、原本に関する。

同語 ふつう抑揚の語気を示す「而況(しかルヲいわン「況(いわンヤ)」、または反語を示す「耐河の「安(いずウンジ)」と呼応して用いる。 の「A尚X、而況B乎(AスラなホX、しかルヲいわンヤカでもという事実を強調しておき、Aよりプラスまたはマイナスに程度の高いBの場合は、Xするのは当然であるとするという事実を強調しておき、Aよりプラスまたはマイナスに程度の高いBの場合は、Xするのは当然であると、ましてやBの場のは、

であるから、ましてや大国の場合は、なおさら当然であるとない。別庶民の交際でさえ、だましあうことはしないの別が衣と交前不二相欺「況大国平縁に繋じながないな合はなおさら(X)である」と訳す。 う(史・廉頗藺相如伝

②「X尚人、安B(平)(Xなホ人、いずクンゾBセンツ」の形で用い、Xについてはまず、「尚」でA程度の高、人名の動作や状態に、どうしてなるであるかと反間する。「Xはなお人ですらあるのだから、どうしてもである。 Bであろうか」と訳す

では、 では、 では、 では、 できずさがばないが、 できばけることすらもしない、 それならどうして刑罰を避 がながばががないと、なお でを避けることができようか、(漢・董仲舒伝) たのである。(釈典芸) 普 し、その時の一般名」『尚

くはうけよ。追悼の情報

た態度をとる。 上にひとえの着物を着 悼文の末尾に用 部首 乡 马 弓 弋 升 廴 广 幺 干 巾 己 工 巛 山 中 尸 尢 / 卜